

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： (一社)しなの福祉教育総研	所在地： 上田市上田 180-6
評価実施期間： 5年9月11日から5年10月2日*契約日から評価結果の確定日(評価結果報告会日)まで	
評価調査者(評価調査者養成研修修了者番号を記載) 060872 B2020068 B18021	

2 福祉サービス事業者情報(令和5年4月現在)

事業所名： (施設名) エコール親愛	種別： 放課後等デイサービス
代表者氏名： (管理者氏名) 藤澤 恵	定員(利用人数)：10名
設置主体：長野県 経営主体：社会福祉法人 親愛の里	開設(指定)年月日： 平成23年5月1日
所在地：〒399-3303 長野県下伊那郡松川町元大島 3020-6	
電話番号： 0265-36-2700	FAX番号： 0265-48-6553
電子メールアドレス： echo1@shin-ai1996.org	
ホームページアドレス： https://shin-ai1996.org/	
職員数	常勤職員：4名 非常勤職員：2名
専門職員	(専門職の名称) 名
	児童発達支援管理責任者 1名 児童指導員 1名
	保育士・児童指導員 2名 指導員 1名
	指導員 1名
施設・設備 の概要	(居室数)
	指導訓練室 2室 静養室 1室
	相談室 1室 台所 1室

3 理念・基本方針

児童の意思及び人格を尊重して、常に児童の立場に立ったサービス提供に努めます。また、事業の実施に当たっては地域との結び付きを重視し、行政や他の放課後等デイサービス事業者その他の保健医療サービス及び福祉サービスを提供するものと連携を図り、総合的なサービスの提供に努めます。
--

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

児童の発達や生活にあわせて、学校や家庭だけではできない様々な経験ができるように多様な活動プログラムを提供しています。近隣の自然や社会資源を活用して子ども達が楽しみながら興味や関心の幅を広げたり、成功体験を重ねることで、意欲向上や自主性を大切にされた療育を目指しています。 また、児童一人ひとりの将来を見据えて、保護者や学校、行政、相談支援専門員等と連携をとり必要なサービスへつなぐ支援を行っています。年に2回保護者会を開催し、保護者同士の交流や学習の機会を作っています。
--

主な活動内容

○創作活動

工作や木工、手芸、季節の制作などを行います。

○運動活動

公園や体育館を使用して身体を動かしたり、集団でのルールを学びます。

○食育活動

畑での野菜作りや調理活動を通して「食」を学びます。

○自然遊び

散策や川遊び、雪遊びなど季節の変化や自然に触れ合うことで豊かな感性を培う機会にします。

○季節行事

春のバスハイク、夏の社会見学、ハロウィン、クリスマス会等、季節の行事を行います。

○地域交流

地域のゴミ拾いやイベントの開催や参加、ボランティアの活用など、地域住民と交流を行います。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	初 回（ 年度）
---------------	----------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

○職員一人ひとりが使命感を持った家庭的な支援

町の複合福祉施設の建設計画が停滞し、一般住宅を借り上げて運営するという厳しい運営環境の中、職員は法人の理念や、子ども一人ひとりのニーズを理解し、強い使命感と高い理想をもって家庭的な雰囲気を持った支援をしています。

職員面談において、全ての職員が「もっとしてあげたい」、「この子らはもっとできる」という思いを熱く語って下さいました。

また、普通の民家を借り上げている環境を活かし、展示物や掲示物などは手作り感満載で、既成の掲示物を使わず、子どもたちが親しみやすい工夫が数多く見られました。

このような環境の中、施設の庭にある小さな畑で収穫した野菜を使った手作りおやつを提供するなど、自然な形での家庭的な支援を行っています。

今後、複合福祉施設の建設が進展することを願いますが、新しい施設に移っても、既成の環境やサービスにとらわれない心温まる手作りの支援が続くことを期待します。

○子ども達や保護者の声に真摯に向き合う支援

利用者や家族からの苦情や要望に対し、真摯に向き合い対話を重ねる姿勢が多く、記録から確認できました。

また、子どもたちからも積極的に意見を聞き取りやすいよう配慮し、苦情・要望の受付ポスターも手作りの温かみのあるものが設置されていました。

子ども達や保護者からの苦情や要望が支援向上のための貴重な意見であることは言うまでもありませんが、そこに向き合う姿勢や対話の中から、互いの信頼関係が構築されていると思えました。

これらの過程で生まれた信頼関係が当施設の大きな強みとなって、さらに素晴らしい支援に発展することを期待します。

○地域の社会資源を活用した支援

住宅地の一般住宅を借り上げている当施設は、その運営に手狭感を感じざるを得ません。

しかし、この課題に対し、日常的に地域の公園や学校の体育館、図書館等を活用し、広く地域の社会資源を活用した支援を行っています。

また、時には町外の公園やいちご狩り、企業見学、電車体験、プラネタリウムなどの社会体験や

社会見学等を行い、近隣地域外の様々な場所や場面で社会性を育む支援に努めています。

一方、保護者に対しても、法人内の障害者就労支援事業所の見学を行うなど、法人が持つ他施設の機能を活かして、将来の自立を目指した活動も行っています。

施設の中だけで完結しない「地域と連携した支援」は、子ども達の将来に大きく活かされるものと思います。

◇特に改善する必要があると思う点

○複合施設への移転計画の停滞による施設環境改善の必要性

町の複合福祉施設の建設計画が停滞し、令和3年から一般住宅での仮営業が続いています。

そのため、育ち盛りの子供たちが動き回るには手狭感を感じ、安全面においても問題があると感じました。また、クールダウンの部屋を浴室に設けるなどの工夫をしていますが、一般の住宅の借り上げでは電気容量が足りず、全室の冷・暖房ができないために、施設内の全室を使用できる期間は限られているようです。

一方、経営面においても、厳しい財政状況を改善するために利用率の向上や、利用者数を増やす必要があると思いますが、限られた環境の中では、それも難しい状況だと感じました。

将来のある子ども達が安心・安全に、そして、元気に動き回れる環境と、一人でも多くの子供達が当施設の支援を受けられる環境の整備が求められます。

○きめ細やかなアセスメント結果に基づく個別支援計画の策定

全ての職員が利用者個々の特性を理解し、子ども達一人ひとりに応じた心温まる支援をしている姿が見受けられました。

しかし、これらの根拠となる個別支援計画策定過程のアセスメントの項目が少なく、客観的な情報の収集と科学的な分析が充分でないと感じました。

様々な角度から利用者（子ども）を見つめ、アセスメントすることは、子ども達の可能性を発見するとともに、支援上の注意すべき点を見つけ出す「気づき」を得る重要なプロセスだと思います。

職員の勘と経験に頼らず、客観的なアセスメントによって子ども一人ひとりの全体像をできる限り正確に反映した個別支援計画の策定と、そこに立脚した支援が求められます。

○情報の整理と共有

当施設は、法人の人事異動や、新規採用によって様々な福祉施設での勤務経験を持つ職員によって、幅広い経験を活かした独創的で心強い支援が行われています。

しかし、職員の当施設のような放課後等デイサービス等の児童施設での平均勤続年数に限ると2年に満たない状況にあります。

そのため、当施設が利用者にも果たすべき役割について、認識や理解に差異があることが職員アンケートや、個別の面談の結果から推測されました。

厚労省の「放課後等デイサービスガイドライン」等にある当施設の法的な役割と、当施設の特徴や課題について職員全員が等しく再確認し、当施設独自の標準的なサービス提供の方法、子ども一人ひとりの個別の支援方法、そして、日々の支援等から得られた学び等の情報を今一度整理し、職員はもとより、関係者全員が情報共有されることが必要だと思います。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

- ・ 共通評価項目（別添1）
- ・ 内容評価項目（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）